

令和3年4月21日



広報資料

【問い合わせ先】

第一管区海上保安本部交通部

安全対策課長 片山 敬義

TEL0134-27-0118（内線2640）

ゴールデンウィーク期間中の海の事故防止活動について ～釣り中の海中転落に注意！～

例年、ゴールデンウィーク期間中は海の事故が増加する傾向にあります。昨年と同期間中、マリレジャーに伴う人身事故は12人、船舶事故は1隻発生しました。

これらの状況をふまえて、第一管区海上保安本部では4月29日～5月5日のゴールデンウィーク期間に向けてマリレジャー愛好者に対し、海の事故防止対策について啓発を展開します。

1 重点事項

- (1) 釣り人に対する事故防止
- (2) プレジャーボートに対する海難防止

2 安全指導事項

- (1) 共通事項
 - ・「自己救命策確保3つの基本」（ライフジャケットの着用、連絡手段の確保、118番の活用）の励行
 - ・海の安全に関する情報配信の推進（ホームページの有効活用）
- (2) 釣り人
 - ・複数行動の励行（釣り中の事故発生時の早期通報、救助の遅延防止）
 - ・行動と場所への注意喚起（歩きスマホ、躓き等による海中転落の防止）
- (3) プレジャーボート
 - ・「自船の安全確保3か条」（発航前の点検、航行時の見張りの徹底、救助支援者の確保）の励行
 - ・最新の気象情報の入手と早期判断の励行

3 取組事項

(1) 部署における周知活動

海上保安部署では、プレジャーボートの訪船指導、マリンレジャー愛好者が立ち寄るマリナーや釣具店に印刷物の配布や掲示を依頼するほか、釣り人への事故防止の啓発を実施します。

各地における主な活動予定については、次のとおりです。

月日	場所	活動内容	実施部署 (問合せ先)
4/中旬 ～	函館管内	プレジャーボート訪船指導 管内釣具店に対する安全啓発依頼	函館海上保安部 0138-42-1118
4/中旬 ～	札幌市 小樽市	フィッシングセーフティショップへ訪問 した情報収集・啓発依頼	小樽海上保安部 0134-27-6118
4/中旬 ～5/5	伊達市	貸しボート店に対する海難防止啓発依頼	室蘭海上保安部 0143-23-0118
4/27	イオンモール 釧路昭和店	海難防止啓発パネル展	釧路海上保安部 0154-22-0118
4/29 ～5/5	苫小牧港 マリナー 鶴川漁港	訪船指導 釣り人に対する自己救命策普及啓発活動	苫小牧海上保安署 0144-33-0118

(2) WEBサイト「海の安全情報」による周知活動

■釣りに関する情報

「必要最低限な装備について」(図1)、「釣りをする際の行動について」(図2)など、釣り初心者でもわかりやすい情報を掲載しています。

なお、「釣り」に関する情報のほか、「水上オートバイ」、「カヌー」、「SUP」、「ミニボート」についてもウォーターセーフティガイドとして掲載しています。

■プレジャーボートに関する情報

灯台等で観測した風向、風速、波高等の「気象・海象の現況」(図3)、航行中のチェックポイント(図4)や緊急時のトラブル対策、灯台の消灯や漂流物の存在などを発信する「緊急情報」(図5)について掲載しています。

また、緊急情報配信サービスでは、緊急情報や気象現況、気象庁発表の気象警報・注意報を電子メールで配信しています。



【緊急情報配信サービス（配信登録）】

<https://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>

【釣りに関する情報】

Water Safety Guide
海上保安庁

ホーム メニュー

釣り FISHING

ホーム > 釣りの安全情報 > 最低限必要な装備

最低限必要な装備

必要最低限な装備について

釣りを安全に楽しむために、必要な装備を装着しましょう。

① 通信設備 (防水ケース入り携帯電話)

② ライフジャケット

③ 釣り場に合った履物

1. ライフジャケット

落水時に浮力を付与し、呼吸を確保するために使用するものです。体格に合った物を選びましょう。また、ベルトやファスナーは確実に締めて、適切に着用しましょう。釣り場所ごとに推奨されるライフジャケットについては、「[ライフジャケット推奨表（※）](#)」（リンクPDF）をご覧ください。

[詳細はこちら](#)

2. 釣り場に合った履物

釣り場は水辺に近いことから、水で濡れていたり、苔などにより滑りやすくなっています。安全のため、特に初心者の方は、必ずお近くの釣具店またはメーカーへご相談の上、釣り場の環境（川・湖・防波堤・磯・船など）に合わせた、滑り止め効果の高い靴底、かつ股げにくい靴などの点をご確認いただき、適切な履物をお選びください。

[詳細はこちら](#)

必要最低な装備について
(図1)



https://www6.kaiho.milt.go.jp/watersafety/fishing/01_equipment/index.html

Water Safety Guide
海上保安庁

ホーム メニュー

釣り FISHING

ホーム > 釣りの安全情報 > 釣りをする際の行動について

釣りをする際の行動について

① 無理をしない | ② 単独行動をしない |
③ 釣行計画を第三者に伝えておく |
④ 立入禁止区域に入らない | 事故事例 |

釣りをする際は、以下の4つのポイントを守り、「安全第一」で楽しみましょう。

① 無理をしない

② 単独行動をしない

③ 釣行計画を第三者に伝えておく

④ 立入禁止区域に入らない

⑤ 無理をしない

釣りに行く際は、事前に釣り場所の天気予報を確認しましょう。自分の体調も考慮し、決して無理はしないようにしましょう。また、急な雨や雷、風、波や流れなどは時間とともに変化します。自然環境の変化は注意しましょう。

② 単独行動をしない

釣りをする際の行動について
(図2)

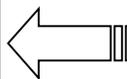


https://www6.kaiho.milt.go.jp/watersafety/fishing/02_action/index.html

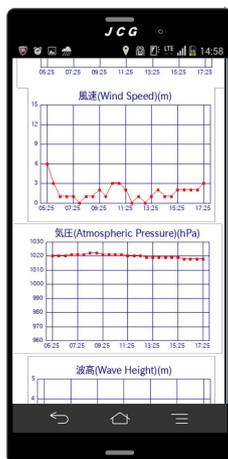
【プレジャーボートに関する情報】



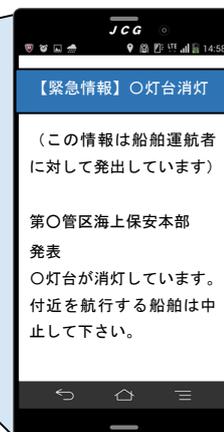
航行中のチェックポイント
(図4)



トップ画面



気象・海象の現況
(図3)



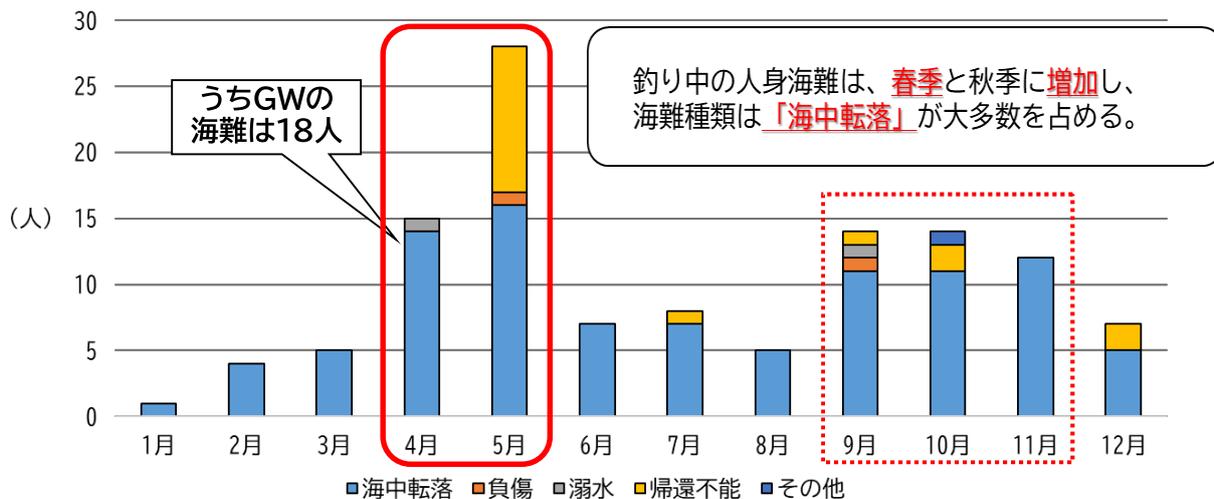
緊急情報
(図5)



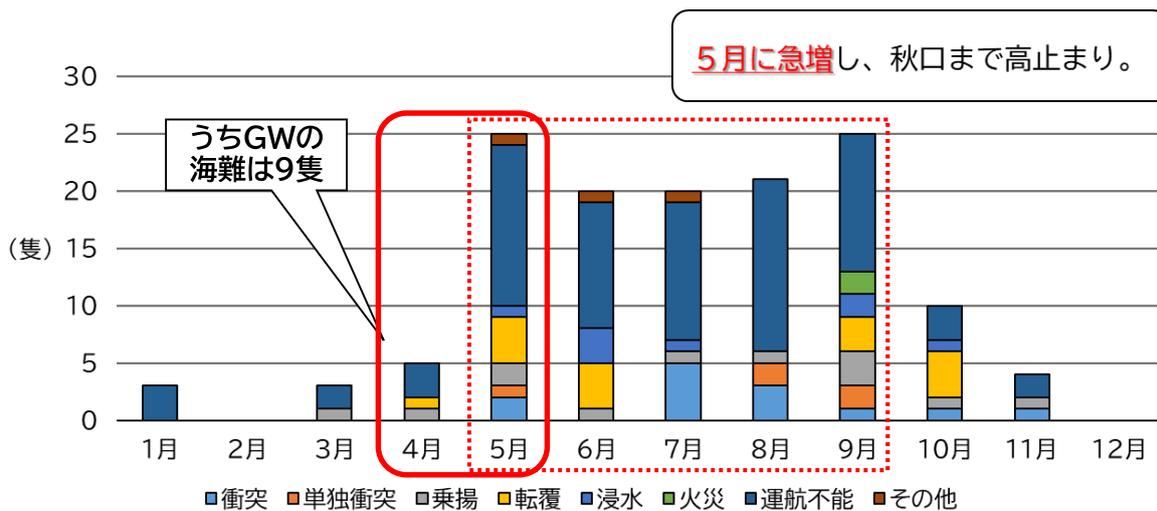
※イメージ図です。

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>

4 海難の月別発生状況



釣りに関する人身海難の月別発生状況 (H28-R2 合計人数)



プレジャーボート海難の月別発生状況 (H28-R2 合計隻数)

<同期間中の事故・海難の状況>

- ・釣りによる海中転落事故は、昨年は1人（1人死亡）、令和元年は1人の事故が発生しています。
- ・プレジャーボートの海難は、7年連続して発生し、昨年は沖の防波堤に係留中のボートが高波により浸水した海難が発生しています。

ゴールデンウィーク期間中のプレジャーボート海難（H28～R2）

年	海難種類	用途細分	乗船者数	乗船通算経験	風速	波高	概要
H28	衝突	ゴムボート	2人	6-10年	2m	0m	漂泊して釣り中に漁船と衝突。
H28	運航不能 (無人漂流)	ゴムボート (ミニボート)	無人	1-3年	3m	0.5m	釣りを終えてアンカー揚収の際に海中転落。
H28	転覆	モーターボート (ミニボート)	1人	1年未満	10m	2m	釣りを終えて帰港中、横風を受けて一瞬に転覆。
H29	運航不能 (機関故障)	モーターボート	4人	10年以上	2m	0.1m	釣りを終えて帰港しようとしたが、バッテリー配線発錆のため機関起動せず。
H30	その他	ゴムボート	3人	10年以上	5m	0.5m	釣り中に霧が濃くなったため帰港中、濃霧に巻かれて船位喪失。
H30	運航不能 (機関故障)	モーターボート	2人	1年未満	6m	1m	釣り中に場所を変えるため機関を起動使用としたが起動せず。
R1	乗揚	クルーザーヨット	1人	10年以上	8m	0.5m	クルージング中、初航行の海域で定置網に乗揚げ。
R1	運航不能 (その他)	カヌー	1人	1-3年	8m	2m	釣りをするため荒天下出港し帰還せず。翌日、水際で倒れているところを発見。 (死亡)
R2	浸水	モーターボート	1人	1年未満	10m	1.5m	防波堤係留中に高波となり浸水。

ゴールデンウィーク期間中の釣り中の海難(H28～R2)

年	種類	天気	風	場所	年齢	居所	ライフジャケット	概要
H29	海中転落	晴れ	0m	岸壁	79	内陸	着用	岸壁前面海域に浮いているところを発見 (死亡)
H29	海中転落	晴れ	1m	防波堤	71	札幌	着用	深夜の防波堤でライトを持っておらず足下が見えなかった
H29	海中転落	晴れ	2m	消波ブロック	54	沿岸	非着用	消波ブロックの間に浮いているところを発見 (死亡)
H29	海中転落	霧	9m	消波ブロック	73	札幌	非着用	消波ブロックの間に浮いているところを発見
H29	海中転落	晴れ	1m	岸壁	29	沿岸	非着用	釣り中にてんかんを発症
R1	海中転落	不詳	3m	防波堤	27	道外	非着用	自身の解けた靴紐に足を取られた
R2	海中転落	雨	4m	消波ブロック	69	沿岸	非着用	消波ブロックの間に浮いているところを発見 (死亡)
R2	帰還不能	曇り	10m	防波堤	39 ほか	札幌	着用	釣りのため沖防波堤に上陸した11人が、通船として使用していたボートが使えなくなり孤立

海難や事故を未然に防ぐ目的で、家族や周囲の方々から「安全指導事項」の声掛けを行ってもらえるようにテレビ、ラジオ等のマスメディアを通じて事故防止の啓発にご協力願います。



【問い合わせ先】
海の安全推進本部
（事務局：交通部安全対策課）
海難防止対策官 間端 啓文
電 話 03-3591-6361（内線 6503）

令和3年4月21日
海上保安庁

GWにおけるマリンレジャーの安全対策強化について

（安全推進活動期間：4月29日から5月5日までの7日間）

例年、GWは、マリンレジャー活動が活発となり、海難が増加する傾向にあります。

さらに今年にあっては、昨年から続く新型コロナウイルスの影響により、3密を回避しやすいのではないかと理由から、屋外レジャー活動が活発化し、事故の増加も懸念されます。

このことから、海上保安庁では、安全推進活動期間を設定し、全国でマリンレジャーの安全対策を強化します。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、政府及び各自治体から外出に係る様々な自粛要請等が出ておりますので、各地での本安全推進活動に合わせ、協力を呼びかけることとしています。

1 プレジャーボートの海難防止

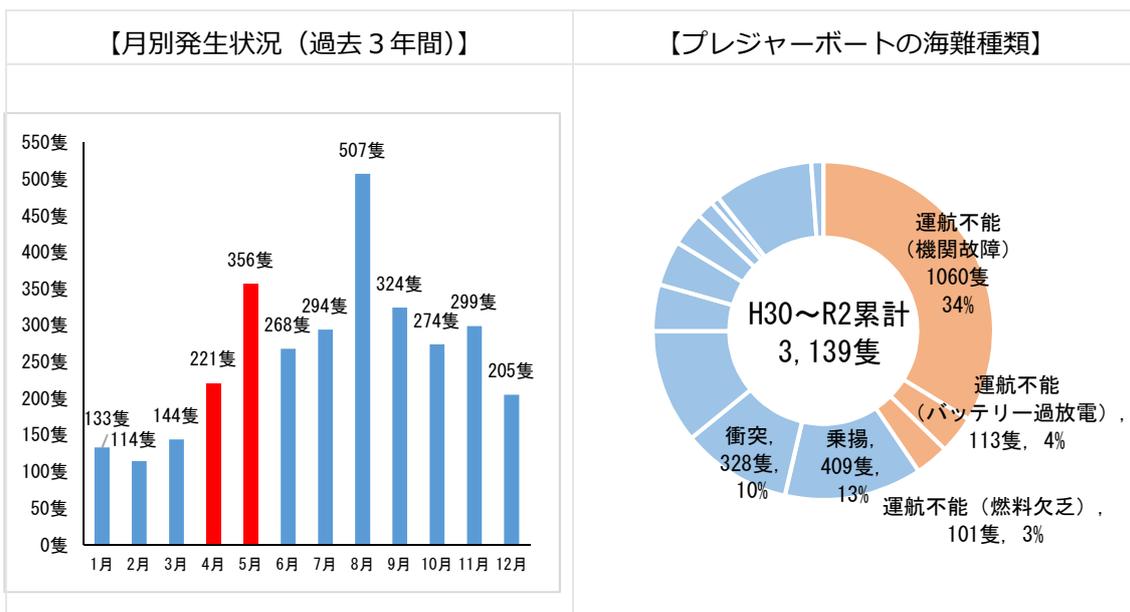
プレジャーボートの海難は春季にかけて増加する傾向にあり、海難種類別に見た過去3年間の内訳では、発航前検査や整備事業者等による定期的な点検整備で防止できる可能性のある機関故障・バッテリー過放電・燃料欠乏が全体の約4割を占めています。

上記事故発生状況を踏まえ、海上保安庁では以下の事項を中心に安全啓発活動を実施します。

発航前検査及び整備事業者等による定期的な点検整備の励行

近年はオークションサイトのほか、注目を集めているフリマアプリなどを通じた個人間取引によりプレジャーボートが流通している状況も見受けられ、整備不良の中古艇の増加が懸念されます。

長期間整備されていない船舶を使用する際は、特に入念な点検整備を実施する必要があることから、小型船舶操縦者の遵守事項に定められた発航前検査を適切に実施するとともに、整備事業者等による定期的な点検整備を重点的に実施するよう洋上やマリナー等での安全指導を強化するほか、民間ボランティアである海上安全指導員等と連携した合同パトロールを実施します。



2 ミニボートの海難防止

ミニボートは小型船舶操縦士の免許や小型船舶検査・登録が不要であることも相まって、近年、利用者が増加している一方、海難も右肩上がり増加しています。

月別に見た過去3年間の内訳では、5月の発生隻数が最も多く、海難種類別に見た内訳では気象海象や船体バランスに対する注意不足等による転覆・浸水海難が全体の約5割を占めています。

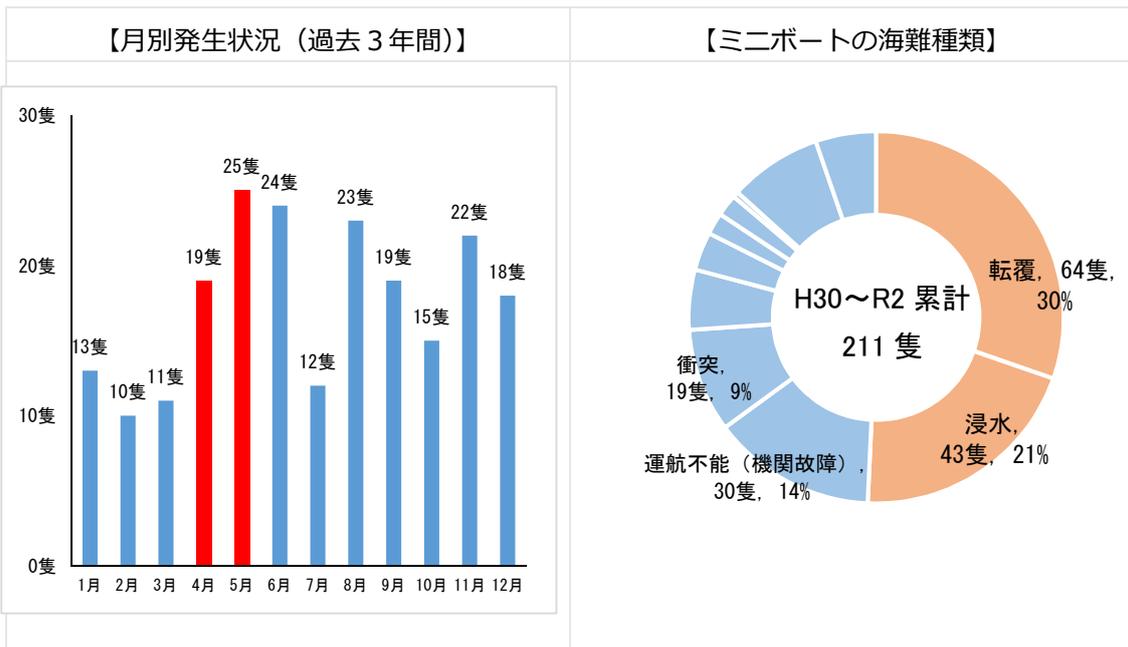
海の知識に乏しく経験年数の浅い乗船者による海難が多く発生していることから、以下の事項を中心に安全啓発活動を実施します。

（1）ウォーターセーフティガイドを活用した知識及び技量の習得

安全に安心してミニボートを楽しむためには、海上交通ルールやミニボートの特殊な構造を正しく理解することが重要なことから、ウォーターセーフティガイドを活用した安全啓発活動を実施するなど、ユーザーの知識及び技量の習得を啓発します。

（2）気象情報の常時把握

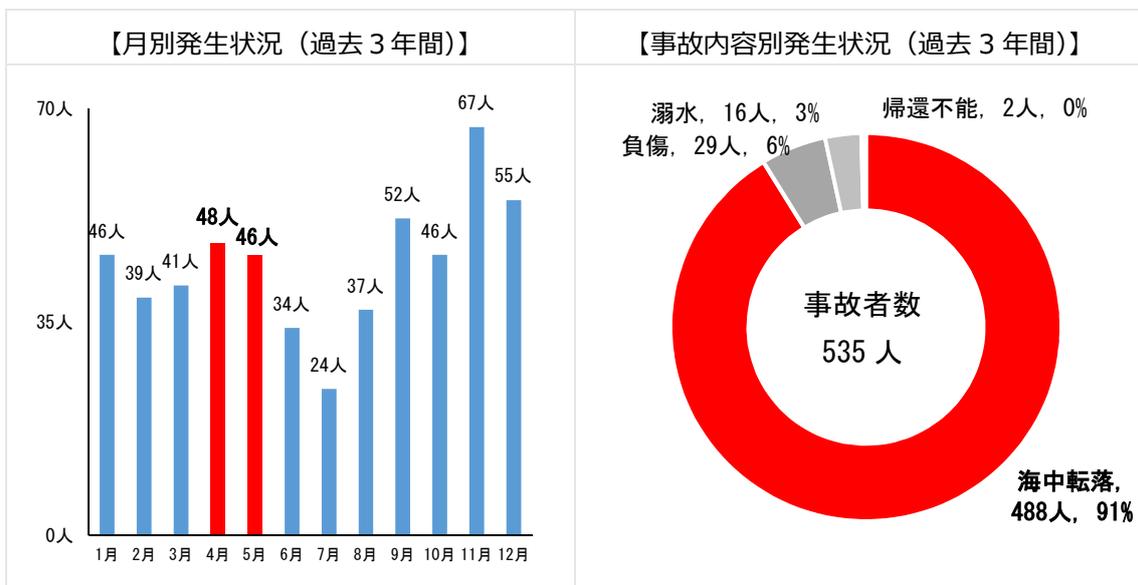
気象海象の影響による海難が多く発生していることから、「海の安全情報」のインターネット・ホームページ、メール配信サービスやテレホンサービスでリアルタイムに提供している気象海象（風向、風速、気圧、波高）の現況、気象庁が発表する気象警報・注意報、緊急情報などの情報を利用することにより、常に気象情報を把握できるため、海の安全情報を活用するように指導します。



3 釣りにおける岸壁及び防波堤での海中転落事故防止

釣り中の事故は春季にかけて増加する傾向にあり、岸壁及び防波堤から海中転落する事故が数多く発生しています。

また、釣り中の事故者のうち、5割以上の方が死亡・行方不明となっていることから、以下の事項を中心に指導、啓発活動を実施します。

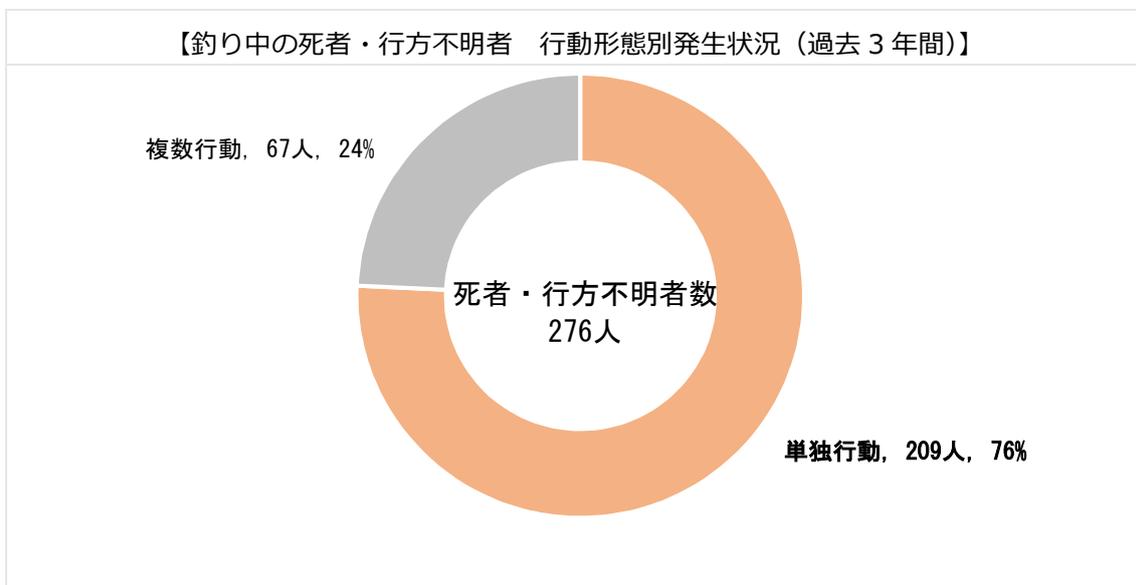


(1) ウォーターセーフティガイドを活用した知識の習得

安全に安心して釣りを楽しむためには、ライフジャケットなどの必要な装備の装着及び複数行動の励行が重要であることから、ウォーターセーフティガイドを活用した安全啓発活動を実施するなど、ユーザーの知識の習得を啓発します。

(2) 複数行動の励行

釣り中の死者・行方不明者276人のうち、約8割が単独で行動していた人でした。万が一海に落ちてしまっても、仲間と行動していれば、救助される可能性が非常に高くなるため、複数行動の励行を啓発します。



4 参考

(1) ウォーターセーフティガイド

海上保安庁では、ミニボートや釣りなどのウォーターアクティビティごとに事故防止のための情報を取りまとめた総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」を開設しております。

本年4月には多くの方に利用していただけるように同サイトのリニューアルを実施し、スマートフォンに対応したデザインや検索機能を新たに追加しました。

海に出る際は、ぜひ新しくなった「ウォーターセーフティガイド」を御活用ください。

Water Safety Guide

ウォーターアクティビティ（海辺でのレジャー活動）を安全に無事故で楽しむための総合情報サイト



Water ウォーター
セーフティガイド
Safety Guide

従来から人気のあるカヌーやミニボートに加え、近年ではSUPなどのウォーターアクティビティの
人気が高まっていますが、安全に関する十分な知識を得ることなく海へ出て、事故に遭遇してしま
うケースも増えています。
海上保安庁では、海辺のアクティビティを誰もが安心して楽しめるよう、事故防止のための情報を
発信する総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」を開設しています。

WATER ACTIVITY

- 水上オートバイ
- 遊泳
- カヌー
- SUP スラントアップ/パドルボード
- ミニボート
- 釣り

これら6つのアクティビティ毎に
安全情報を掲載しています。是非ご覧ください。

ウォーターセーフティガイド 検索

QRコード

▶ **海の安全情報**
全国各地の灯台やライブカメラなどで観測し
た風向、風速、波高などの「海の安全情報」をリ
アルタイムに提供しています。

QRコード
パソコン用

QRコード
スマートフォン用

▶ **海難速報**
海上保安庁が広報した海
難の概要を毎日掲載して
います。

QRコード

JCG 海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

(2) 海の安全情報

海上保安庁では、海難を防止することを目的として、プレジャーボート等の小型船舶操縦者、海水浴や釣り等のマリンレジャー愛好者の方々に対して、全国各地の灯台等で観測した局地的な気象海象（風向、風速、気圧、波高）の現況、気象庁が発表する気象警報・注意報、ミサイル発射や避難警告等に関する緊急情報、海上工事や海上行事等の状況に関する海上安全情報、海上模様が把握できるライブカメラ映像等の安全に関する情報を「海の安全情報」として提供しています。

パソコンやスマートフォン、携帯電話から、簡単にアクセスできます。

海の安全情報

で

検索

パソコン用サイト



<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

スマートフォン用サイト



<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>

携帯電話用サイト



<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html>

緊急情報配信サービス



<https://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>